

# 年内に稲株のすき込みを！

令和2年11月13日  
JAほくさい  
加須農林振興センター

近年の出穂期から登熟期間における高温条件は、後期栄養不足や活力低下による登熟不良を招き、玄米品質低下の大きな要因になっています。

また、近年、台風や爆弾低気圧等の影響により、稲刈り後の稲わらが田や用排水路、道路に流出・散乱するなどの被害が発生しています。

そのため、稲収穫後、土づくりと大雨や台風の襲来に備えて年内に速やかに耕耘し稲株を圃場にすき込みます。



稲刈り直後にすき込みを行う様子

## 【稲株の早期すき込み】

稲株を分解する土壤微生物は、地温が15℃以上で活動が活発になるとされており、早期にすき込むことによって稲株の土壤分解が促進されます。

すき込みは、収穫後できるだけ早く行い、**遅くとも年内**に実施してください。秋にすき込むことによって、春先のすき込みによるワキ（硫化水素、メタンガス）の発生が抑えられ、根腐れ等、稲の生育障害を軽減することができます。



ガス害による被害の様子

## 【稲株の早期すき込みは雑草や病害虫の予防に効果が高い】

「クログワイ」や「オモダカ」などの厄介な水田雑草の塊茎を土壤表面に露出させることにより、冬場の低温や乾燥で死滅させる効果も期待できます。

ヒメトビウンカやカメムシ類の害虫越冬場所の稲株をなくす効果もあります。

また、「スクミングゴカイ（ジャンボタニシ）」の貝を粉砕する効果が期待できます。

## 【暗渠栓管理】

収穫・すき込み作業が終了したら早急に暗渠栓の閉栓を行い肥料分の流亡を防止しましょう。